



県内主要産業の動向

2011年 11・12月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	11年10月	11年11月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は、国内向け、輸出向けとも、厳しい業況が続く。その中で、一部、ファミレスなど外食産業向けには動意がみられる。外注費値上げ分の製品価格への転嫁は、比較的順調とのこと。産地では、2月に東京で開催されるギフトショーへの出展効果に期待。
金属 ハウスウェア	●	●	→	受注は総じて依然盛り上がり欠いている。そうした中、大震災以後、落ち込んでいるIH調理器向け製品に、やや需要回復の動き。ステンレスなど原材料価格が高止まっており、収益の圧迫要因となっている。円高の定着も引き続き懸念材料。
作業工具	○	○	→	国内受注は引き続き堅調に推移。一部の製品には、震災からの復興需要もみられる。一方、輸出は、アジア向けは依然堅調であるが、欧州向けで弱含みの動きがみられる。円高定着と世界経済の先行き不透明感から、海外からの受注見通しを慎重にみる向きもある。
半導体	◐	◐	↘	半導体、半導体素材とも受注は弱い。半導体ではタイ洪水の影響や世界経済の停滞などから、受注は足下も悪化が続くという。半導体素材ではなお在庫調整局面が続いており、素材市況も低迷。明確な改善の兆しがなく、業界では、震災復興の本格化に期待する声も聞かれた。
電子部品	○	◐	→	受注は全般的に弱含み。タイの洪水被害が広がっており、県内企業でも直接的、間接的な影響がみられている。また、円高に加え世界経済の停滞も受注減少に拍車をかけている。先行きも明確な牽引役がみられないことから、3次補正の早期執行による景気底上げに期待がかかる。
鋳物	◐	◐	→	受注はまだら模様ながら、全体として動きは弱い。そのなかで、タイ洪水関連のスポット受注で売上を確保する企業や自動車部品関連の受注が堅調とする企業が一部みられた。足下の受注環境も大きな改善は見られないことから、先行きの景況感是不透明感が増してきている。
金型	●	●	→	受注はまだら模様。鋳造金型では、タイの洪水復旧関連やトラック部品など自動車関連の受注が堅調とのこと。一方、プラスチック金型やダイキャスト金型の受注には盛り上がりが見えず。受注は、安値、小ロット、短納期傾向が続いており、収益面では厳しい状況となっている。

業種	景況			コメント
	11年10月	11年11月	先行き	
一般機械	○	○	→	IT・デジタル関連向けは、中国向け輸出は減速したが、タイ洪水の復旧需要は盛況。自動車関連は、タイ洪水による若干の落ち込みはあったが、概ね順調に推移。建設・プラント向けなどの大型機械は、概ね横這い推移。全体の先行きは、経済・為替の行方など不確定要素が多く、強弱見方が分かれる。
絹織物	●	●	→	全体的に業況は厳しい。十日町産地は、イベントの集客は比較的順調。足下は年末年始の需要があり繁忙との企業もみられるが、全体的に問屋が仕入れを抑制し売上は伸び悩む。五泉産地は、価額・数量とも昨年を下回り、不透明感が増している。
合繊織物	●	●	→	春夏物の受注・生産期。先染織物は、受注が堅調な先もあるが、総じて低調。後染織物は、婦人物向けが伸び悩むなか、ワーキングウェア向けは堅調を維持し、低水準ながら前年並みの受注を確保。この間、県の主導で県内繊維産業をPRするプロジェクトを立ち上げる動きがある。
ニット	●	●	→	秋冬物最終期～春物受注・生産期。しかし、消費の伸び悩みや輸入品流入を背景に、受注は総じて低調。この間、ニット雑貨のネット販売や、自社ブランドの立ち上げなど、独自戦略で販路開拓に注力する動きも見られる。
木工家具	●	●	→	受注は総じて低調に推移。業務向けは、首都圏マンション関連受注が引き続き回復傾向。飲食店関連では足下繁忙だが先行き不透明感が強まる。個人向けは依然低調。産地では、桐木工教室開催や価格を押さえた新デザイン商品のPRで新たな販路拡大を目指す。
清酒	●	◐	→	需要期を迎え、出荷は特定名称酒、普通酒ともほぼ前年並みを確保。スーパーを販路とした「家飲み」需要が比較的堅調に推移している模様。一方、業務店向けや百貨店のギフト向けなどは今ひとつのこと。年末には、東京で「酒の陣」を開催し、新潟清酒の消費喚起に努めた。
米菓	○	○	→	年末の需要期に向かい、生産は増加傾向。売上は概ね前年並みを確保しているが、消費者にやや買い控えの感があり、お歳暮需要も弱含んでいる様子が見え始めた。この間、地元の中学生とコラボレーションで、柿の種の新商品を開発する企業も見られる。
建設	●	●	→	公共工事は、県発注の災害復旧工事が動き出しているものの、本格化にはまだ至っていない。民間工事は、下げ止まり傾向がみられるものの更新投資が中心。住宅建設は、住宅エコポイントなどの政策効果に支えられて持ち直していたが、足下では反動減の動きもみられる。
小売店 (大型店)	◐	◐	→	11月は比較的気温が高く、百貨店やスーパーでは、コートなど防寒衣料や鍋物関連の食料品等の動きが鈍かった。ただし、足下では気温の低下に伴い、冬物衣料等に動きが見られる模様。また、クリスマス商戦は、宝飾品などで一部盛り上がりが見られたが、お歳暮商戦は苦戦がみられる。